



支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。今月は東予総合支所から「夏彩祭の名物となった、周桑手すき和紙を使った行灯作り^{あんどん}」について紹介します。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1

TEL0898-64-2700

FAX0898-65-4363

大曲川に映える行灯と周桑手すき和紙

ロマンチックな幻想世界へのいざない

『おいでや、あそぼや、まちよるけん』をキャッチフレーズに恒例の夏祭りイベント「夏彩祭」が、今年も8月22日(日)に開催されます。

会場となる新地商店街は、ダンス夏彩祭やフリーマーケットなどで大いに賑わいますが、もう一つの名物は、通称『恋人たちの散歩道』と呼ばれている、大曲川兩岸を彩る五百個余りの行灯です。川面にゆらゆらと映える行灯の明かりは、夏の終わりにロマンチックな幻想の世界を作り出します。

行灯に使われる

周桑手すき和紙

国安・石田の両地区では、高縄山系で涵養^{かんよう}した良質で豊富な水と気候に恵まれて、古くから和紙が作られています。全国の檀紙・奉書紙生産量の9割以上を、この周桑手すき和紙が占めています。

夏彩祭で作られる行灯には周桑手すき和紙が使われているのです。

行灯の製作過程

6月に入ると東予郷土館で祭りの実行委員会を中心に、地元商店街、周桑和紙振興会、ボランティアの方々が、



▲数の増加によって行灯作りも大変です

行灯の枠作りやろうそくなどの準備を始めます。

また、近隣の幼稚園や保育所の子どもたち、老人福祉施設のお年寄りや郷土館の和紙教室の参加者たちが、和紙に絵を描いたり、貼絵などしながら行灯の制作に励みます。

夏彩祭の当日



▲子どもたちの手作り行灯

夏彩祭の当日には炎天下のもと、大曲川の兩岸に行灯を一つひとつ並べていきます。枠を組み立て、ろうそくを置き、最後に絵を描いた和紙をかぶせて完成です。

6時を過ぎて薄暗くなるのを待って、いよいよ行灯を灯します。ゆらゆらと揺れる炎の明かりが兩岸にずらりと並び様は、暗闇の中に幻想的な世界を浮かび上がらせます。川面に映る行灯のほのかな明かりはとても風情があります。自分の絵を行灯に見つけ「あった!あった!」と喜ぶ親子や、『恋人たちの散歩道』を楽しそうに語らいなが

ら歩くカップルなど、さまざまな光景が見られます。橋の上からはたくさんの方が写真撮影し、立ち止まって見入る人たちもいます。

毎年、天気を気にしながら行灯を飾っていますが、急な雨に途中で撤収した年もあります。去年は台風のために延期となり、日を改めて準備しましたが、残念なことにその日も強風のため、ろうそくを灯すことができませんまま終わりました。

周桑和紙をより多くの人に知ってもらうために始めた行灯作りも、今年で6年目を迎えます。実行委員をはじめ皆さんのご協力により、年々行灯の数が増えています。これからもより多くの市民の皆さんに参加していただき、夏の風物詩として根付かせていきたいと思っています。



▲伝統を今に伝える周桑手すき和紙